

平成 19 年度第 1 回上田城南地域協議会会議録

日 時 平成 19 年 4 月 23 日 (月) 午前 10 時から 12 時
場 所 城南公民館 2 階大ホール
出席委員 石井委員・石黒委員・石坂委員・井出委員・岡部委員・掛川委員・木内委員・
酒井委員・竹内秀夫委員・竹田委員・田中明委員・田中千寿子委員・中澤委
員・中島委員・中村委員・西川朋子委員・西川良幸委員・宮崎委員
市側出席者 原沢まちづくり協働課長、古川まちづくり協働課地域振興政策幹

1 開会 (古川地域振興政策幹)

2 会長あいさつ (田中会長)

新年度に入り市におきまして一部組織が改正ありまして、また事務局の体制も変わっております。

本日の協議会開催にあたり、事前に城南地域協議会の検討要望事項の資料がお手許に届いていたかと思えます。城南地域の今後の具体的協議事項等について、集中的にご審議をお願いしたいと思っております。予定の時間内でスムーズに進みますよう御協力をお願い致します。

3 新委員紹介

中澤由璋委員

西川良幸委員

〔新委員自己紹介〕

4 新事務局体制報告

資料 1 政策企画局の組織改正

古川地域振興政策幹から説明

5 会議事項

協議事項

(1) 副会長退任に伴う選出について

(田中会長)

それでは協議に入ります。副会長選任について事務局から説明をお願いします。

(古川政策幹)

副会長の丸山一郎さんが平成 19 年 3 月 27 日に退任されました。空席になっております副会長の選任をお願いいたします。選出方法につきましては、前回は推薦ということで決定いただきました。

(田中会長)

今説明がございました選出方法についてお諮りするわけですが、前回は推薦という方法でしたが、今回はどのような方法が良いか皆さんのご意見を伺いたと思います。

(中村委員)

執行部から提案があればお願いします。

(田中会長)

事務局にお考えがあればお願いします。

(原沢まちづくり協働課長)

推薦という形でよろしいのか、ご確認をお願いいたします。

(田中会長)

推薦ということでもよろしいでしょうか。

<全委員了承>

(田中会長)

では推薦ということで、推薦については事務局からお願いいたします。

(古川政策幹)

それでは今まで城下自治連推薦の丸山様をお願いしておりましたので、後任の中澤由璋委員さんをご推薦いたします。

(田中会長)

今事務局の説明のとおり、丸山様の後任ということで中澤委員さんということでございますが、いかがでしょうか。

拍手了承

(田中会長)

それでは皆様のご賛同を得ましたので、中澤委員さんに副会長をお願いしたいと思います。それでは、中澤委員さんお願いいたします。

(中澤副会長)

突然のお話でございまして戸惑っております。

これから一生懸命勉強いたしまして会長さんにご指導いただきながら、頑張りたいと思います。ご迷惑をかけるケースもあると思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

(2) 城南地域の今後の具体的協議事項等について

(田中会長)

次に協議事項の 2 番でございますが、城南地域の今後の具体的協議事項等について、でございます。事務局から説明をお願いいたします。

(古川政策幹)

事前資料といたしまして皆様のお手許に、城南地域協議会で今後検討したい事項等についての資料をお配りしてございます。今後この地域協議会がどのような活動をしていったらいいのか、協議をお願いしたいと思います。

(田中会長)

今事務局のお話のとおりでございます。資料の内容についてご協議をお願いしたいということでございます。資料は「今後検討したい事項」「市から説明を受けたい事項」「今後調査研究したい事項」の 3 つに分けてございます。先般このことについて皆さんからいただきましたご意見がここに集約されております。これについてご議論をお願いしたいと思います。

私もここに 20 名の委員がおります。それぞれの選出団体の母体もあります。これからそれぞれご意見が出てくると思います。

長い歴史を持つ自治会の組織があります。自治会は長い歴史の中で地域における活動を行ってきており、またそこに住む住民の絆を大事に培って今日に至っているわけです。そのような経過がある中で、地域協議会との整合性と申しますか、そのあたりも極めて大事だろうと思います。皆さんのご発言の中で当然いろいろと出ることと思います。地域協議会と自治会の皆さん、役員の皆さん等との話し合いを持っていく、そのようなことも欠かしてはいけない大事な部分だろうと思います。たくさんの議題がございしますが、それぞれのお立場でご発言をいただきたいと思います。

それでは進めてまいりたいと思います。竹田委員さんからお願いいたします。

(竹田委員)

今後の進め方ということですか。

(田中会長)

そういうことです。事務局から説明ありましたように、どのような活動をしていったらいいのか、ご協議をお願いしたいということでございます。何回ご発言いただいても構いません。

(竹田委員)

2 つ考え方があってはないかと思いますが、小グループに分けていろいろな検討を進めていくか、それとも自分の得意とする関心のある分野に分けて進めていくか。

(田中会長)

それでは竹内委員さんお願いします。

(竹内秀夫委員)

ここにいろいろメニューがあって、このメニューのどれを選択していくか、という選択の話にしていくのか、あるいはとりあえずメニューを出した委員にもう一度聞いて話をしていくのか、というのがあると思います。今は選択の方法を話し合おうということで進めるということであります。竹田委員さんは今選択の方法を提示したと思うのですが、その辺をどうするかまず決定し、私はそのうえで発言したいと思います。

(田中会長)

今竹内委員がおっしゃったように、話の進め方は特に決めていないつもりです。そのことも含めて皆さんの議論の中で方向付けをしていきたいと思います。

(竹内秀夫委員)

そういうことですね。私はこの中身について話をしたいのですが、それぞれの方が出しているわけですから、自分の出しているところを意識して発言されるだけのことだと思います。もちろん担当される方もいらっしゃるかと思いますが、そういう意味ではこのメニューの中でどれを優先させて検討していくかという、優先順位の決め方ですね。それについて話をしていたらいいかなと思います。決め方はいろいろありますが、時間があれば自分のしたいのはこれなんだということで説明して、納得してもらうというのがベストですけど、それは非常に時間を要する話なので、決めづらいつころだと思います。最終的には結局、例えば 5 票くらい票を持って、自分がこれとこれとこれならいいんじゃないかというものに入れる。その票の集まった順位で決めていくという方法になるわけですが、それがいいかどうかというのは、これからの議論になるかと思えます。とりあえず案としては一人 5 票くらい票を持って、それで優先順位を決めるという方法があるかと思えます。

(田中会長)

今竹内委員から一つの提案がございました。確かにたくさんのメニューがあります。提案された方々がいらっしゃるわけですから、この方々からその思いを述べてもらうことが一つの方法です。また同時に 20 人のそれぞれの意見のいずれかを取り上げる、取り上げないという話にしていいのか、あるいはこの協議会として技術的な部分に何か方法があるのだろうかとも感じるところです。

今竹内委員がおっしゃったような選択方法、5 票を分け合うと、それをメニューそのままかして取り上げるのか、あるいはこれを見ると重複する部分もあります。城南公民館ということに関しては少なくとも 4 人の方が関心を示して提案されております。別所線の電車に関しても 4 人以上の方がいろいろな提案内容をお持ちです。そういうものをどのように前処理していくのかも技術的な部分だろうと思います。このことについてご発言ありましたらお願いしたいと思います。

(酒井委員)

何れにしても方向付けをしないといけないと思います。ここに検討したい、説明受け

たい、研究したい各事項合わせると全部で 70 くらいありますが、この 70 について、20 人でいちいち検討するというわけにもいかないと思いますので、城南公民館あるいは別所線とか各委員さんが思っていることをある程度集約した後、ワーキンググループをつかって検討を進めていくことでどうか。

(田中会長)

事務局に質問ですが、ここに記載してある内容は皆さんから提出いただいたものを、特に手を加えずに羅列されたということによろしいですか。

(原沢まちづくり協働課長)

はいそうです。

(田中会長)

とすれば、酒井委員さんからもご意見がございましたように、いくつか重複する部分あるいは優先順位的な問題もございます、それらを含めて 70 余ある中から大きな項目に選び出すかということですが、折角提出いただいたこの 70 の項目についてそのような方法で進めることが皆さんの意思に反することではたらないわけです。そのような方向で皆で協議することが好ましくないというご意見の方はいらっしゃいますか。

(田中会長)

いらっしゃいませんね。ではご了解の中で次に田中委員さんご意見をお願いします。

(田中千寿子委員)

皆さんおっしゃっているように、項目数が多いので、いくつかに分けられると思います。分けてその中から絞って進めていった方が良いのではないかと思います。

(田中会長)

この城南エリアが今現実に直面していること、それから今後この地域に予想されるであろう現象、例えば人口の密度、長年の課題である城南公民館はどうなるのか、福祉医療の部分に対するバランスの問題に対しても何人も委員が意見を述べられています。そういう部分も含めて 70 余の項目の中から大きく絞るとしたならば、数は限定しませんがいくつか、どれとどれという具体的な部分についてご発言をお願いしたいと思います。宮崎委員さんいかがでしょうか。

(宮崎委員)

まだはっきり見えてこなくてよく分からないが、過日私たちが地域まちづくり方針を提出いたしました。その方針とこれから進めていこうとしていることは、どの様な関係になるのか。

それをふまえて、城南地域のまちづくりをどのようにしていくのかを考えていけばいいのでしょうか。

(田中会長)

今宮崎委員さんのおっしゃったことは、大変大事な ことだ と思います。

過日市長に答申した城南地域のまちづくり方針に、イメージが書いてあるわけです。

その確認をしながらより具体的な議論を進めなければならないと思うのです。例えばまちづくり方針の 3 番に「人と自然にやさしい交通機能の整備」の項目が出ております。その中には「別所線の利用を促進させ、駅周辺駐車場の整備を進め、観光振興を図ります。」と書いてある。このことが項目の中にもいくつか書いてある。それとの整合性を図る中で、組み立てを議論していかなければいけないと思う。4 番目に「保健福祉施設の整備」と書いてある。特別な題でなく我々今までいろいろ議論をして、市長に渡した中身がここに書いてある。

そういうふうにご理解いただければ、これからの議論の進め方が決してそれぞれの地域エゴにならず、地域の自治会の皆さんとの整合性の中で違和感もなく、そういう方向が目指せるだろうと私は思います。

(石井委員)

会長さんから地縁団体との関わり、行政との関わりについて場を設けてというようなことが挨拶であったように、委員の立場、協議会の役割等をもう一度再確認したい、ということだと思います。その次に話し合いの方式を決めるのは当たり前の動きであるので、それは意見ではなく一つの基盤であると思うので、それをまず決めたい。

それとテーマをどうやって決めるという話があったわけですが、変なたとえかもしれませんが、「麺類」。例えばうどんとかカップヌードルとか、麺類で分ければそれは麺類だが、カテゴリーでフランス料理なのか日本料理なのかイタリア料理なのかという分け方があるので、当初の方法は「教育・福祉・環境」という 3 つの三本柱の中で割り振りますよというのか、あるいは麺類として似てるからこれは似ているものというように分けるのかということも決めていかなければと思います。

自分とすれば「教育・福祉・環境プラス防災」という方向で進めることでどうかと思います。複合しないテーマは課題の解決ができないとするならば複合意見はこれなんだ、というようなグループ分けをしたらどうかと思います。そのグループ分けをする中で、先程から会長さんがおっしゃっているように、根幹を統一しなくてはいけないと思う。その根幹を覆すような意見があると、では協議はなんだったんだというような話になってしまうので、その根幹と言うか基盤を大切に、テーマの分け方をまず決めて、「教育・福祉・環境そして防災」というように分け、分けたものを事務局の意見などを聞いて、ワークショップ方式をとるのかそうでないのか、方法はたくさんあるので、選択できると思う。決め方にはいろんな方法がありますので、そういう中で一ついいのを選択して、その中でいろんな課題を整理していく中で、課題が整理されたら、いよいよ具体的にそれではここをどうするのか、その中で掘り下げていく。その方法が効率的なのかなと思います。

先ず会の位置づけ、メンバーの位置づけ、話し合いの方針の決定、テーマをどのように分けるかを決めて、分けたらそれを 18 年度の方針のもとに模索する、そのような方向性がいいかと思います。

(田中会長)

ここで休憩といたします。

〔休憩〕

(田中会長)

再開します。

皆さんの意見を聞いて、技術的にどうすればいいんだろうという部分もございます。優先順位を含めてどうするか、漠然としているという意見もあったわけです。

過日この上田城南地域として 7 つの項目にまとめて市長に答申した地域まちづくり方針がございます。従ってその 1 から 7 までに 70 項目のものがどう含まれているか、まず作業をしてもらうことがいいかと思う。次にこの 7 つの項目を分科会のような形で、20 名の議員が 3 名ずつになってしまいますが、それも一つの方法だと思います。そうではなくて両方にいくつかに関係していくと、技術的な協議はともかくとして、そういう方法もあると思います。そういう形でみなさんの議論をまとめていきたいと思います。それでよろしいですか。

それでは、続けてご発言ください。石黒委員どうぞ。

(石黒委員)

70 数項目をまず 7 項目に分類して、その作業から始めていった方が早いのではないかと思います。

(田中会長)

西川委員いかがですか。

(西川良幸委員)

私は初めてでよくわからないのですが、いずれにしても項目数が多く漠然としているので中では、話は始まらないと思う。ですから 20 人の委員を 3 班に分けて、それぞれの班の中で優先的に検討したい項目をこの 7 項目に分類しながら、3 班に分かれた中で協議して、決めていったらいいのではないかと思います。

(田中会長)

石坂委員どうぞ。

(石坂委員)

とりあえずこの 7 項目に分類していくことでどうか。時間がどのくらいかかるかわからないが、グループに分かれて分類分けをするのか、全員で進めていくのか。

(田中会長)

井出委員さんどうでしょうか。

(井出委員)

私も同じで、やはりこの地域まちづくり方針で分類していった方がいいと思います。その中に入らない分野も出てくると思いますので、それを として、その他で分類し検討していけばいいかと思います。

(石井委員)

私も先程申し上げましたが、7項目に分けるのは大切なことだと思う。子供の遊び場という項目があるが、これは7項全部に該当する。だから分け方にも2種類あるから2種類に分けて考えていったらどうかという提案である。

(井出委員)

そうですね、重複する部分がありますから。

(田中会長)

石坂委員のお話の中に、70項目を7項目に分類する方法として、グループで行っていくのか、それとも全体で一気に進めるのか、という話がありました。

(井出委員)

皆さんと同じで、 として分類される項目もあると思うので、もう1項目増やして分類していけばいいと思う。

(田中会長)

それも一つの提案です。それでは西川委員さん。

(西川朋子委員)

私もこれだけの膨大なものを押し問答していても進まないと思う。最初のまちづくり方針の7項目に全部振り分けて進めるのが、一番手っ取り早いのではないかと思う。

(田中会長)

まだあと何名かの委員さんにお聞きしなければいけないのですが、今の流れの中ではこの70余項目を、この方針7項目もしくは項目をもう一つ増やして分類していくというご意見ですが、そのことについて異議はありますか。

異議なし

(田中会長)

いいですね。それでは具体的にどういうふうに進めるか、技術的なことですね。岡部委員さんいかがですか。

(岡部委員)

新しい情報である70項目を2月9日に答申した7項目に当てはめて分類し、進めていくが手っ取り早い方法だと思う。

(田中会長)

掛川委員さんどうですか。

(掛川委員)

7つに分けるのは良いと思うが、ただ絵に描いた餅ではなくて、実現させるにはどうしたらいいか、その検討を進めていかなければ意味がないのではないかと思う。

(田中会長)

木内委員さんいかがでしょうか。

(木内委員)

答えになるかどうかはわかりませんが、市から説明を受けたい事項の中に「児童館に関して子供達の数、現在の設置状況」とありますが、これは私が提案した項目で、自分の地区の課題を記載すると思ったものですから、この項目は外していただいて結構です。地元に対しての説明会も始まっていますので、外していただいて構わない。

それともう一ついろいろ項目はありますけれど、現在の城南公民館が建設されてから、かなりの年数が経過していると思うが、駐車場が少ないですし、一番の課題であると思う。別所線とかいろいろ課題はあるかと思いますが、今は車社会ですからできればあまりいくつもやるのではなく、城南公民館の建設を早くして、第1期の私たちが協議会委員を務めさせていただいた証として、広い駐車場がある公民館の建設を皆に賛同を得る中で進めていければと思う。

(田中会長)

中島委員さん。

(中島委員)

進め方については今皆さんがおっしゃったとおりでいいと思う。ただ、最初に会長がおっしゃられた、自治連との関係ですね。

地域の中で何人かに会うたびに自治連と行っていることはどう違うのかと、同じようなことを行っているのではないかと複数の方から言われてはったことがあった。だから自治連との関係だとか、城南地域の中にいろんな活動をする様々な団体の方々との意見交換とか話し合う場を設けながら進めていければいい。基本的に7項目についてはいいと思う。その他個人で出された意見がありますが、それについてもう少し地域住民、幅広い皆さん方からの声を吸い上げる方策も必要である。具体的に同じ地区に住んでいるといっても小牧の方とは違うといった部分があると思う。知らないことも多いので、我々委員でつぶさに実地見学なりをして、そのようなことも具体的に進めていくようなことでどうか。

(田中会長)

一応全委員さんからご発言をいただいたところです。この中の整理では、皆さんがそれぞれの思いを込めて提出いただいた70余項目を7項目にここへ包含させると、具体的な方法に7項目プラスもう1項目という発言に私は注目したいと思います。自分の考えがこの中に入りきらないという方がいても不思議はないと思う。でするので、その他としてがあってもいいと思います。もう1点、掛川委員さんがおっしゃいましたが、より具体的に実現性をどうするかというお話がございました。全委員が感じていることだろ

うと思います。したがって、より効果的に今後活動するその目的はより具体化させるための近道を選ばなくてはいけないことでもあります。そういう中で木内委員さんから城南公民館の問題を我々の任期中に目途をつけたい、というご発言がありました。そういうような議論を本気で進めていきたい。

まず前段階として今日の会議の中でこの 70 余項目をここへ包含するというのに、具体的な作業の方法にはいろんなことがあります、そのことについては皆さん全員そういう方向でよろしいということよろしいでしょうか。

拍手了承

(田中会長)

それではそういう方向にしたいと思います。

(中村委員)

細分化したのも重要ですからこれはやっていかなければいけないだろうと思うが、我々の方で提案した 7 項目のうちの、私は同じ意見かもわかりませんが、端的にやってくらば、やっぱり細分化した項目も組み入れながら、城南公民館の問題を優先してやっていくべきではないかというふうに私は取れたのですが、それでよろしいですか。

(田中会長)

その議論は 8 項目の中へ分類後、今度その中でどうしましょうという議論の中に公民館 1 番になっても不思議ではない。別所線という話になっても決しておかしくない。より実現する可能性のあるものをどういった順番で議論していくかということです。

その先に中島委員さんからありましたように、我々がある程度突っ込んだ議論をするために、自治会あるいは長い経過のある団体と連携を図りながら、一層協力しあって実現に向けて進めていきたいと思うところです。

(石井委員)

ちょっといいですか。会長が俺はこういうことだよといったその気持ちもわかるつもりではいます。皆さんにもう一度お聞きしたいのは、ワーキングチームになるということですか。協議会なのかワーキングチームなのかよくよく考えないといけない。我々は地域協議会をどのように考えるのか。ワーキングチームの理解は委員によって違うかもしれないが、それでいいのかと思うところである。

(田中会長)

ここの 20 名だけの意見で物事が進むわけがない。それはやはり自治会であり、それぞれ古い歴史の中で公民館の話は随分昔からある話です。松山先生が中心になって進めていた経過もあります。そういう人たちに協議会はそういう方向に協議を進めるという方向になりました、地域の皆さん意見交換しあって、公民館建設の実現に向けていくなふうにしていかなければ、私はこの協議会自体の存在が非常に一般市民から乖離したも

のと理解されてしまう恐れがあると思う。

(石井委員)

会の位置づけと会議の位置づけと枠組み、というところが今決定されようとしています。それで進めるということであれば方向は決まる。

(宮崎委員)

話を聞いていても、いつまでにどのようにもっていくかということがわからない。同じように市の地域活動拠点といった方針が出て、同じようなものをこの委員会の中で答申みたいな形でもっていくのですか。そこがわからない。いつまでに、どういう中身で話し合いをしていくということが、市の考えている地域協議会の役割の部分がどうしてもこの中にすっきり見えてこない。この方針の中に城南公民館のことだっって入っています。私たちが具体的に城南公民館に対してイメージをもって、こういうものを建設してくださいというようなことまで言えるのか。それとももっと地域の人たちを巻き込んだ形で、私たちはこのように答申しましたけれど地元の自治会長さんはどのようにお考えですか、という形に流れていくのか、私たちがどこまで話し合いをしていく委員会なのかというところがどうしても胸に落ちない。

(田中会長)

19 あるわけですが、自治会だと思います。自治会の皆さんとこの協議会とが十分議論をして、我々の提案という形も出てくると思う。

自治会の皆さんと我々地域協議会との話し合いをいつどんな形でやるか、ということをお聞きしたいと思っていたところである。

(竹内委員)

自治会と決めつけることは少し違うかと思う。一つのやり方としては協議委員が20名しかなくて、20名で何か進めていこうというのは少し無理な話なんです。やはり分科会形式をつくるべきであって、その時に初めて自治会から入ってきたり一般から入ってきたり、それが数十名の塊になっていくわけですが、そこで初めて地域づくりを行っていくというスタイルだと思う。私たちはそれが進んでいく段階で、分科会がどのように動いていくか、そういう形で話しをしていく場が変わっていくのかなと私は想像している。

(田中会長)

自治会とまず最初に接点というか協議を持つということではなくて、分科会的にやってその中で必要があれば接点を持つというお考えですか。

(竹内委員)

もちろんそこに自治会が入ってもいいですし、そこに興味がある一般の住民が入ってきても当然いい、そういうスタンスですかね。

(田中会長)

私が最初お話しした自治会との接点というのは、今竹内委員さんがおっしゃったような

自治会との最初の協議が出た中で、今のようなこととするならばそれはそれでいいんです。自治会そのものと話し合いを行うことは必要ではない、分科会の中で必要とすれば開催すればいいという意見だとすれば、私が今まで申し上げてきたこととは違います。

(石井委員)

まさに自分の言いたかったことは今の価値観の問題です。自治会と接していくのは大事です。それは大切だが、どう接していくかって時に、この協議会を、駐車場の広さまで提案するワーキングチームとして、地縁団体の一つとして位置づけながらつき合っていくのか、知識基盤を統制するというふうに位置づけて、自治体の下部でもなく議会の下部でもなく、別に地縁団体ではないということになってしまうので、まさにこの2つの選択の中で会長が言ったことで皆さんがそれでいいということであれば、そのとおりに従う。それで進めるとなると竹内委員の言ったところとは少し離れてしまうけれど、その辺のところを選択して、皆さんわかっているのならいいですが、わかってないで進んでいってしまった場合、どんなものかというのが私の意見です。私はどちらでも構いません。一つの地縁団体としての枠を持った時にいいのかどうかというと、いけないと思うので、どちらかという知識基盤の統制といった竹内委員さんの言葉を借りれば分科会とか、そっちの方がよろしいのかと思う。

(田中会長)

自治会との接点というか協議会を開くということについて、皆さんのご意見を確認しておきたい。それぞれここに7項目プラス1項目、このことの実現性と地元地域の皆さんの合意、理解を得るためには、関係の自治会の皆さんとまず会合を持ち我々の協議会の姿勢というものを説明して、共々意見を交換し合うこと、そのことに対して皆さんの意見を確認しておきたい。そういうふうに運ぶことに賛成してもらえますか。

(中島委員)

自治連はどのような活動をしているか、私自身はわかってないってところがあるのですが、ここにいる皆さんは承知していらっしゃるか。接点が見出せるものはタイアップしてやっていかなければまずいと思う。地域協議会として独自のものだってあると思う。接点を見出さなくてもいいものだってあると思う。自治連の活動そのものをよく知らないと、こうすべきああすべきということをなんとなく言い難い部分もある。ある地域の役員の方に「同じことやってるではないか」と言われて、「ああそうなのかな」と思う部分もある。私は活動を知らないから、もっと勉強しなければいけないと思ったから先ほど発言したところである。接点をもって活動するものは連絡を密にして進めなければいけない。独自のものだってあるわけですね。例えば答申以外に地域協議会としての独自性をみんなで審議しあって煮詰めて、逆にこっちから発信するというふうにしていくってことでこれを集約してきた。まず自治連の活動をしっかり勉強する、そしてどういう形でタイアップしていくのか、協働の世界を見出していくかっていうことを話し合っていきたい。

(中澤副会長)

自治連の動き、これは当然より良いまちづくり、暮らしやすいまちづくり、いろんな方向に向けて皆で頑張っている。行っていることは同じです。安全な町づくりであったり、市の皆さんとの連携をとって、要するに地域をいかに活性化させていくとか、いろんな方向ありますけども、それを連合会でできるだけ実施していただきたいものを優先づけて市の方へテーマを出す。実現できるものもありますし、継続で進んでいくものもあります。やっていることは地域の皆さんにとってどうだ、市との連携をどういうふうにやっていくか、一番のテーマです。今この協議会で協議していることも何か一ついい方法で決めて実績をつくっていかうと、大小はあると思いますが、基本的には地域の皆さんのために何をどうするんだ、ということだと思います。単位自治会で行っていることが連合会になって、テーマを選択していかに地域を活性化するか、こういう考え方で進めていますから、自治連だからどうこうって発想の前に、単一自治会がやっていることをみんなで連携プレーをして、更に良くしようということですね。行政とどういう連携をしてどういう形でまちづくりをしていくか、こういうこと進めているわけでありませう。

(掛川委員)

私は自治連の役員を務めておりましたけれども、意見の吸い上げの方法が違います。川辺泉田の自治連ということになると、皆さんは各地区の自治会長です。各地区の自治会長がそれぞれの自治会の中の問題点、要望を持ってきて、連合会の中で提案をします。前年度の継続もあるし新たな提案もあります。それをまとめて総会という形をとって、市長にも来ていただき、要望をまとめたものを市の方へぶつけます。

総体的な見方をしますと、地域協議会と同じような動きにはなりますが、自治連の場合は自治会長が意見を代表して持ってくる。地域協議会はそうでない方も選任されておりますので、意見の吸い上げが若干違うかなあとと思います。

(中澤副会長)

単一自治連であれば協議員がいて、地域みんなの意見を出し合って協議して自治会長がそれをもとに持っていくわけですよ。それぞれ選ばれた協議員の皆さんの協議会で決議をしてやっていくと、いろんなご意見を持ってやっておられる。私は動き方は同じだと思います。

(中村委員)

私は会長が言われたとおり進めてもいいと思います。各ポジションから我々は選出されています。自治会の連合会長なり各班の会長なりと一緒に膝を交えて、地域の課題を話し合う中で、城南地域ではまず何をしていかなければならないか、まとめていくのが一番いいと思う。

(竹内委員)

何度もいいますけれど、最初から自治会と連携ありきという考え方ではなくて、もう

少し城南地域協議会としてどういうことやっていくかということが見えてきた段階で、各自治連と協力してやった方がいいという時に、そこで初めて自治連と話をし、協力を要請する、そういう考え方ではいけないんですかね。少なくともこの協議会のメンバーとして、自治連会長の立場の方もいらっしゃるわけですよね。そういう方が中に入っているのに、更に根回ししてかなければいけない、そこからスタートするというのは違うのではないかと思う。

(田中会長)

他にご意見は。

(西川良幸委員)

この70ある項目の中でまず何を優先に協議するのか、協議した結果こういう方向でいこうということが決まった時点で、自治連なり自治会なりに、この協議会ではこういうふうに協議してこういう方向に進みたいんだけど皆さんの意見はいかがですかと、そういう方向にもっていけないか。協議の方法と提言の方法という項目に入ってしまったという感じを受けたところである。例えばこの城南公民館をどうするかということテーマとしてみんなで協議しているんな意見が出た。それで協議会で一つの結論が出た段階で、皆さん方はどうですかって方向にもってかないと、まずいんじゃないかと私は思う。

この協議会自身の独自性もある程度出さないと、あってもなくてもいい会議だと思われる可能性もありますので、研究テーマを一つ二つに絞って、徹底した討論を行って統一した意見にまとめ上げて、それを自治連なり自治会なりに提言してそこでまたここで決まったことを協議して、修正すべきところは修正する、そういう方法をとらないと、意見の対立ばかりしていても何の進展もないはずです。既に会の運営の方法にまで入ってしまった。何か一つテーマを絞らないと、何回会議やっても進展しないと思う。

(酒井委員)

そもそも地域協議会ができた目的をもう一回会長からご説明願いたい。

(田中会長)

一つは市長の諮問に対して地域協議会が答申をしていくということで、総合計画の地域まちづくり方針に関しての答申を行ったところである。

今回進めようとしておりますことは、協議会としては地域におけるそれぞれの要望とかまちづくりに関しての意見を、市長に申し上げることができるということです。この地域の将来、この中には忙しいものもあるし、時間をかけても立派なものをつくって欲しいというものもある。そういうものをこの地域の総意としてまとめて市長に我々の要望を持ち上げていくと、市長はそれを読んでもくれます。そういう機能が我々協議会にはある。

(竹内委員)

一つ抜けている部分がありまして、諮問に対する答申、意見、要望。もう一つありま

すね、まちづくりを私たちもやっていくんだってということですね。3番目が結構重要で、3番目があることによって城南地域協議会が存在する意味があると思う。私たちは自分の手で自分の地域をつくっていくという意味が大事だと思うんですね。

(原澤まちづくり協働課長)

まず合併に当たって、旧町村の皆さんは周辺部がさびれるのではというようなことをはじめいろいろ心配をされていた。それを解消するために地域自治センター構想というのを協議会で考えまして、それは旧町村の役場に地域自治センターを置いて、そこで地域の皆さんの声を集約したものを市の方へ届けるといもの、それが地域協議会という位置づけにしていた。旧上田市につきましては自治会組織が地域の声を届けていた。だから必要ないのではないかという声があったわけですが、結局最終的には公民館単位で設置することになった。ですから自治会との活動と重なる部分もあるとは思いますが。地域協議会については市の条例で、審議機関という位置づけですから、協議会の意見は市として最大限尊重する、そういうスタンスです。市から諮問をして地域の声を集約として聞く場合と、地域として自ら意見を市に対して述べるという場合があります。

(田中会長)

今の説明の通りこの要望が即行政に反映できるということではなく、この部分が取り上げられればいいなという部分があるわけです。

ではこの70項目を7項目に集約するということについては皆さんの賛同を得られたと考えて、では実務的にこれをどうやるかということは今日決められる状況にないかと思えます。次回の開催に連動するものですが、これをどういう手順でやるのか、作業班を分けるのか、全体会議でやるのか、その辺のご意見をお願いします。

(竹田委員)

一応たたき台というか、事務局で振り分けしていただきまして、それをもとにしていたらいかがでしょうか。

(田中会長)

他にご意見は。事務局はどうですか。

(原澤まちづくり協働課長)

分類はすぐにできます。それを事前にお送りします。

(田中会長)

その時に私はこの班に入りたいと、そういうようなものをもってきてもらえるものか。

(宮崎委員)

今これを7項目に分類し、人数分けすると3人になるけれど、3人では無理でしょう。日程的なこともある。

(酒井委員)

7つに分けるのは大変だと思いますので、先ほどのその他を8とすれば、1と2、3と4というように二項目くらいずつに分けて、第一希望、第二希望というように事前に事務

局へ出してもらってもいいと思う。

(井出委員)

項目についてなんですが、1と2は関連するのが結構ある。関連性の強いもので分けた方がいいのではないかと思います。

(掛川委員)

期限はありますか。

(原沢まちづくり協働課長)

ありません。総合計画に位置づけますから、来年から8年間の方針です。前期4年間の中で、後期の見直しも出てきます。その中で地域づくりを進めていくわけです。継続で進めていくということになると思います。

(西川朋子委員)

この7項目の中でもっとも今やらなければならない最優先のものを一つ選ぶということはどうか。

(田中会長)

それは一つの議題として協議の中で選べばいい。では今事務局のほうでこの70の項目を8つの大項目に分類したものを事前にお送りし、その際にどのグループに参加するかという希望も取るということによろしいですか。

了承

(3) 次回の会議の開催について

(田中会長)

次回の議会の開催についてですが、事務局から説明をお願いします。

(古川政策幹)

5月の中旬から下旬ころ開催したいと思います。

(西川朋子委員)

できればそちらで決めてもらいたいのですが。

(原沢まちづくり協働課長)

5月21日の月曜日の同じ時間でどうでしょうか。

(田中会長)

皆さんどうですか、それでは次回は5月21日月曜日午前10時から開催します。

(田中会長)

本日の会議は以上で終了といたします。